

ジャパン・スポットライト 2024年3/4月号掲載（2024年3月10日発行）（通巻254号）

英文掲載号 <https://www.jef.or.jp/jspotlight/backnumber/detail/254/>

飯塚信夫 氏（神奈川大学 経済学部 教授）

コラム名：Economic Indicators for Japan

減少傾向が止まらない日本の出生数

2023年の日本人の出生数は70万人台前半か

日本の出生数の減少が止まらない。2023年11月24日の日本経済新聞電子版の記事では、2023年の日本人の出生数が70万人台前半となり、8年連続で過去最少を更新するという民間試算を紹介している。

一方、出生数を確認できる「人口動態統計調査」（Vital Statistics）には、速報（Prompt Vital Statistics Report）、月報（Monthly Vital Statistics Report）、確定数（Annual Vital Statistics Report）の三種類の統計が存在する。冒頭の日経記事は、速報や月報の実績から2023年の確定数を予測したものである。

今月の本稿はこの三種類の統計の違いや、近年の日本の出生数の推移と将来見通しについて取り上げる。

出生数を確認するための3つの統計

上記の3つの統計は、速報が調査月の約2ヵ月後、月報が調査月の約5ヵ月後、確定数が調査年の翌年9月と公表のタイミングが異なる。2023年の実績値は、速報でも2024年2月末まで待つ必要があるが、このタイミングでは注目度の高い日本人の出生数は正確にはわからない。速報は、市区町村で作成された調査票の枚数をカウントしたものであり、日本における日本人、日本における外国人、外国における日本人及び前年以前に発生した事象を含むためである。

日本人の出生数を確認できるのは月報で、2023年については2024年6月ごろまで待つ必要があり、確定するのは2024年9月となる。近年の速報、月報、確定数それぞれで発表された出生数は **TABLE** の通りであり、月報で明らかになる日本人の出生数は速報の出生数の0.96~0.97倍になっている。

本稿執筆時点で速報は2023年11月分まで公表されており、1~11月累計の出生数は69万6886人である。2022年1~11月累計に比べて5.3%減で、月報の出生数が同じ割合で減少すると仮定すると、2023年の日本人の出生数は73万人と予測される。確かに70万人台前半である。

TABLE

Trends in vital statistics of Japan

| Calendar Year | Number of Births (10,000) | | |
|---------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| | Prompt Vital Statistics Report | Monthly Vital Statistics Report | Annual Vital Statistics Report |
| 2016 | 101.09 | 97.70 | 97.72 |
| 2017 | 97.82 | 94.61 | 94.61 |
| 2018 | 95.08 | 91.84 | 91.84 |
| 2019 | 89.86 | 86.52 | 86.52 |
| 2020 | 87.27 | 84.08 | 84.08 |
| 2021 | 84.29 | 81.16 | 81.16 |
| 2022 | 79.97 | 77.07 | 77.08 |

Source: "Vital Statistics", Ministry of Health, Labour and Welfare

2017年の低位推計に近づいていた出生数

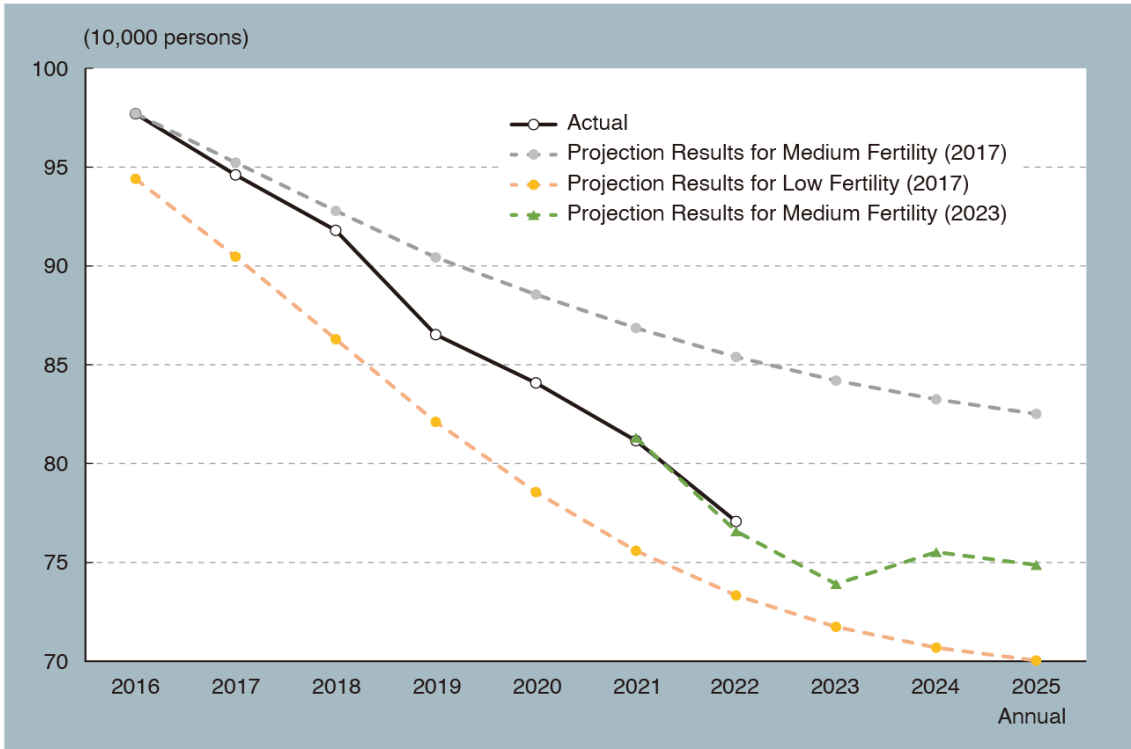
将来の出生数などの人口見通しは、国立社会保障・人口問題研究所（National Institute of Population and Social Security Research）が行っており、2023年4月に最新版の見通しが公表された。人口見通しは、出生率や死亡率の想定を変えたものが複数公表されているが、注目度が高いのは出生率も死亡率も中位の想定である。**CHART** は、実績値と、前回（2017年）と中位と低位の出生率想定に基づく見通しと、今回の中位の出生率想定に基づく見通しを比較している。なお、実績値が日本人の出生数であるため、見通しも「日本人人口参考推計」を用いている。

2016～2018年は、2017年に公表された中位の出生率想定に基づく見通しに沿って実績値も推移していたのが、2019年から実績値の減少幅が大きくなり、じわじわと低位見通しに近づいてきたことが確認できる。2022年の実績値は77万人であったが、低位見通しは73.3万人であった。そして、2023年は、低位見通し（2017年）が71.7万人、中位見通し（2023年）が73.9万人であり、実績値にほぼ一致しそうだ。

なお、中位見通し（2023年）によれば2024年から出生数が持ち直す見通しであるが、低位見通し（2017年）では2026年に出生数が70万人を割る見通しになっている。

CHART

Number of births in Japan – actual & projection results



Source: “Vital Statistics”, Ministry of Health, Labour and Welfare, “Population Projection for Japan”, National Institute of Population and Social Security Research

外国人の日本での出産はまだ少ない

確定数では、日本における外国人の人口動態や外国における日本人の人口動態も別掲されている。2022年の日本における外国人の出生数は1万6874人。日本における日本人の出産の2%程度であり、まだ少ない。ただし、10年前の2012年でも日本における外国人の出生数11万3484人で、当時の日本における日本人の出生数が104万人であったことを考えると存在感は少しずつ高まっているともいえるかもしれない。

外国における日本人の出生数は2012年に1万6205人だったが、2022年は1万746人と若干減っている。

(注) 本稿は2024年1月23日までに得られた情報をもとに執筆している。

(了)